

システム・ダイナミクス学会日本支部
2009 年度 第1回会員総会

開催期日:2009 年 7 月 18 日(土)

16 時 30 分～17 時

開催場所:学習院大学 南3号館104室

議長

JSD会長 森田道也

議題

1. 2008 年度決算報告:承認事項 会長
2. 2008 年度事業報告:報告事項 会長
3. 2009 年度事業計画・予算:承認事項 会長
4. 2010～2012 年度会長選挙予定:報告事項 事務局長
5. その他 事務局長

【総会成立条件】

JSD事務局

1. 2009 年度 JSD総会提出資料に関する理事会議決

理事会

- (1) 期間 7月10日～14日
- (2) 形態 理事会 MLによる電子理事会
- (3) 出席者: 森田道也(会長)、山内 昭(副会長)
以下理事: 松本憲洋、内野明、海老根敦子、栗本英和、小池昇司、
近藤史人、田中伸英、蓮尾克彦、明神知、渡部淳一、
欠席者: 福田敦、山口 薫
- (4) 議事
2008 年度決算報告
2008 年度事業報告
2009 年度予算・事業計画
- (5) 結果
理事会メンバーの出席者全員(12名)の賛成を得て、提出案が承認された。

2. 2009 年度 JSD総会出席者

- (1) 出席者(21 名)
小池昇司, 山口庸一, 池田誠, 大迫尚司, 渡部淳一, 小川貴史, 西岡太郎, 内野明,
豊島雅和, 井上高正, 明神知, 浅井俊克, 蓮尾克彦, 森田道也, 松本憲洋, 小林秀徳,
栗本英和, 海老根敦子, 伊東良之, 高田真好, 坂倉省吾
- (2) 委任状の電子メール送信者
神崎広史, 落合以臣, 野口良造, 佐藤均, 渡邊恵, 宇野恵裕, 近藤史人, 長岡晴子,
和泉潤, 隈部和弘, 福田信孝, 山口薫, 雨宮隆, 山内昭, 佐保田英司, 因藤信之,
田中伸英, 福島史郎, 野田英志, 西川太一, 吉川道弘, 竹内智, 細川敏宏, 富樫慎一,
重藤進二, 山根学, 重野芳人, 長尾征洋, 樋口透, 有村幹治, 市川庄司
(以上 31 名: 7 月 18 日 9 時現在)
- (3) 結論
出席者と委任状送付者の合計が (52 人)
2009 年 6 月 30 日時点の会員の議決権者が (100 人)
定足数(議決権者の 1/3)が (33 人)





出席者と委任状送付者の合計が定足数を越えていることから総会は成立する。

【会員状況】

<u>2007 年度末会員数</u>	110 人(2008 年 3 月 31 日現在)
<u>2008 年度末会員数</u>	126 人(2009 年 3 月 31 日現在)
<u>2009 年度当初会員数</u>	102 人(2009 年 6 月 30 日現在)

1. 2008年度収支決算書

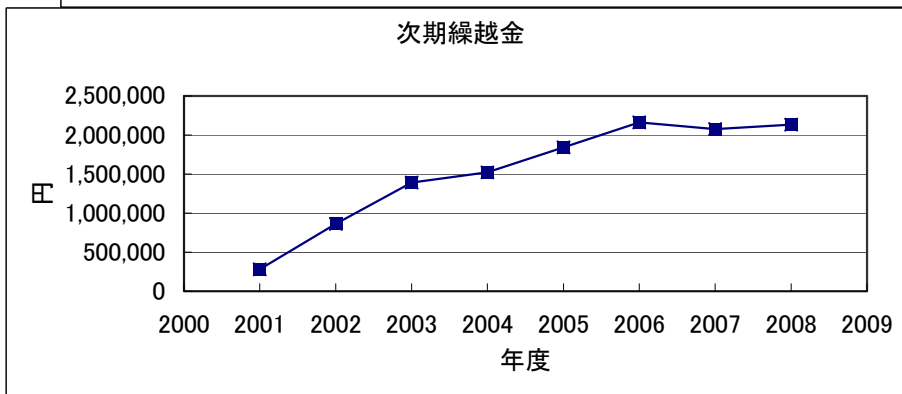
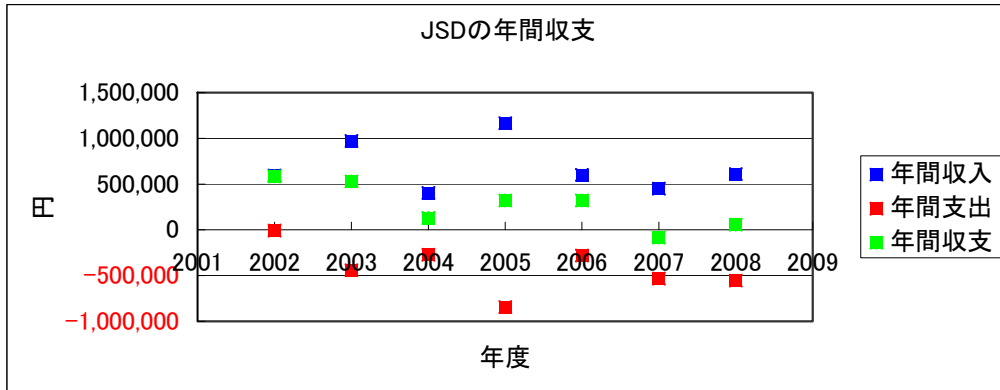
(2008年4月1日～2009年3月31日)

	2008年度予算額	2008年度決算額
収入の部		
前期繰越金	2,077,071	2,077,071
個人会費	500,000	491,475
賛助会費	50,000	50,000
出版物売上	100,000	63,500
雑収入	0	5,287
当期収入合計	650,000	610,262
収入の部合計	2,727,071	2,687,333
支出の部		
通信費	100,000	39,100
印刷費	100,000	0
事務用品費	15,000	8,669
講師謝金	50,000	34,000
交通費	5,000	2,960
雑費	30,000	6,210
会議費	20,000	8,022
研究会(首都圏)補助費	50,000	0
研究会(全国区)補助費	50,000	0
研究分科会補助費	50,000	0
アルバイト謝金	20,000	15,000
学会誌印刷費	350,000	397,215
前年度未処理分	0	20,000
事務所賃貸料	24,000	24,000
当期支払合計	864,000	555,176
次期繰繰り越し	1,863,071	2,132,157
(現金残高)		68,108
(預金残高)		2,064,049
(未払い金)		0
支出の部合計	2,727,071	2,687,333
2009年7月2日	理事(会計担当)	蓮尾克彦 
2009年7月13日	理事(総務)・事務局長	松本憲洋 
上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。		
2009年7月7日	監事	内山 章 
2009年7月9日	監事	夏目真一 

JSD収支履歴

2009/7/14

年度	次期繰越金	年間収入	年間支出	年間収支	NOTE	会長
2001	280,498				1/1-12/31	小林
2002	865,058	594,000	-8,440	585,560	1/1-12/31	小林
2003	1,393,623	970,617	-442,052	528,565	1/1-12/31	小林
2004	1,522,745	402,049	-272,927	129,122	1/1-12/31	森田
2005	1,841,123	1,166,075	-844,197	321,878	1/1-3/31	森田
2006	2,161,844	600,557	-279,836	320,721	4/1-3/31	森田
2007	2,077,071	449,469	-534,242	-84,773	4/1-3/31	森田
2008	2,132,257	610,262	-555,076	55,186	4/1-3/31	森田



2. 2008 年度事業報告 (2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)

2. 1 JSD 研究会

- (1) 首都圏 : 11回を予定し、7回開催した。
担当 小林秀徳(顧問) 渡部淳一(理事) 藤本ヒトシ(幹事)
- (2) 全国区 : 1回を予定し、2007年11月に京都で、同志社大学ビジネススクールのSDグループと共催で開催した。
担当 栗本英和(理事) 小池昇司(理事) 福島史郎(幹事) 西川太一(幹事)

2. 2 学会誌の発行

発行号数 : 8号
発行時期 : 2009年8月31日に発行の予定で準備を進めている。
査読者 : 雨宮隆、和泉潤、内野明、落合以臣、末武透、鈴木信幸、竹内智、辻稔郎、富樫慎一、豊島雅和、西嶋尚彦、野田英志、伊東秀幸、山内昭、
担当 : 編集委員長 福田敦
編集委員 内野明(理事) 海老根敦子(理事) 田中伸英(理事)
森田道也(会長)
編集担当幹事 石坂哲弘 Atit Tippichai 岡村誠 谷亮太 金子翔一 池下英典
鈴木元太

2. 3 研究分科会の活動促進

2008年度に3つ以上の研究分科会の開設を目指したが、2つの研究分科会のみが開設された。以下に示す2つの研究分科会の活動報告については、添付資料を参照のこと。
「ビジネス・プロセス・モデリング研究分科会」(主査:森田道也 幹事:松本憲洋 16人)
「ダイナミックシステム・モデリング研究分科会」(主査:近藤史人 幹事:小池昇司 25人)

2. 4 フォーラム/シンポジウムの開催 担当:全役員

- (1) 島田俊郎先生記念 JSD カンファレンス2008
期日・場所:2008年5月31日 13時～17時 学習院大学南3号館
発表件数:6講演
担当:カンファレンス準備委員会(事務局中心)
参加者数:52人(会員30名、非会員22名)
- (2) JSD カンファレンス2009 in 名古屋
統一テーマ:百年に一度の経済危機を克服する持続可能なマネジメント
期日・場所:2008年5月31日 10時20分～18時 名古屋大学環境総合館
発表件数:12講演
担当:カンファレンス準備委員会(全国区研究会担当と事務局の合同)
参加者数:60人(会員32名、非会員28名)

2. 5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進 担当:山口薫

参考資料「第26回SD国際会議に参加して」(添付)に報告しましたSD国際会議の内容に、その後追加すべき事項が発生しておりませんので、同資料をもって事業報告に代えさせていただきます。

2. 6 SDの普及のためのWeb公開・講習会など 担当:近藤史人

イベント開催通知、論文募集などの情報掲載を速やかに行うことを目標に活動した。主にトピックスのページにおいて、JSDカンファレンス、研究分科会、研究会の開催通知などをタイムリーに掲載することが出来た。昨年以前の古いトピックに関しては、トピックの履歴にアーカイブした。

2. 7 運営体制 担当:松本

カンファレンス、研究会、学会誌の発行の主要な事業を、担当グループが自律して実施できる体制を試みた。そのために、会長が各担当グループに責任者を指名し、そのリーダーを中心にして事業運営を行なった。

いずれの担当グループも、それぞれに自律的な運営を行なったと評価される。

3. 2008 年度本部役員

3. 1 運営組織

会長：森田道也

副会長(会長補佐)：山内 昭

総務担当理事(Executive Director)：松本憲洋

国際担当理事(International Society Liaison)：山口 薫

JSD 研究会(首都圏)理事：渡部淳一 (特別に、小林秀徳顧問が管掌)

JSD 研究会(全国区)理事：栗本英和、小池昇司

JSD 学会誌理事：福田敦、内野明、海老根敦子、田中伸英、森田道也

監事：内山 章、夏目真一

事務局：松本憲洋(事務局長)

理事・事務局担当幹事：

近藤史人(HP の運営・管理)、蓮尾克彦(会計)、明神知(会員管理・ML 運営)、

小池昇司(JSD 研究会連絡)、渡部淳一(JSD 研究会連絡)

3. 2 顧問

坂倉省吾先生

小林秀徳先生

3. 3 担当幹事

事業推進において担当理事を補佐する幹事を、各担当責任者の要請に基づき、会長が委嘱した。

(1) JSD 研究会(首都圏)

藤本ヒトシ

(2) JSD 研究会(全国区)

西川太一、福島史郎

(3) JSD 学会誌編集委員会

石坂哲弘 Atit Tippichai 岡村誠 谷亮太 金子翔一 池下英典 鈴木元太

4. 2008 年度事業報告 詳細説明資料

JSD研究会(首都圏)

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2008/9/6 13時	1 小林秀徳	中央大学	政策科学, 社会教育とSD
場所	一橋大学丸の内産学連携センター			
出席者数	19			
担当役員・幹事	小林・渡部・藤本			

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2008/10/7 19時30分	1 小林秀徳	中央大学	モデリングとシミュレーション
場所	中央大学駿河台記念館			
出席者数	8			
担当役員・幹事	小林・渡部・藤本			

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2008/10/14 19時30分	1 小林秀徳	中央大学	経済学とSD
場所	中央大学駿河台記念館			
出席者数	9			
担当役員・幹事	小林・渡部・藤本			

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2008/10/21 19時30分	1 小林秀徳	中央大学	システムダイナミクスとシステムシンキング
場所	中央大学駿河台記念館			
出席者数	13			
担当役員・幹事	小林・渡部・藤本			

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2008/10/28 19時30分	1 松本安生	神奈川大学	温暖化に対する人々のリスク認知と環境教育の効果
場所	中央大学駿河台記念館			
出席者数	6			
担当役員・幹事	小林・渡部・藤本			

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2008/11/25 19時30分	1 渡部淳一	法務省	SDと刑事司法
場所	中央大学駿河台記念館			
出席者数	5			
担当役員・幹事	小林・渡部・藤本			

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2009/7/18 13時30分	1 渡部淳一	法務省	JSD研究会首都圏の2008年度活動の総括報告
場所	学習院大学南3号館	2 栗本英和	名古屋大学	百年に一度の経済危機を克服する持続可能なマネジメントー JSDカンファレンス2009in
出席者数	未定	3 小林秀徳	中央大学	高速道路料金に関するSD政策研究の展開
担当役員・幹事	小林・渡部・藤本			

JSD研究会(全国区)

研究会名称	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2008年11月22日 10:00-17:30	1 福島史郎	同志社大学	日本のものづくりは本当に強いのか?~因果ループ図による検証~
場所	同志社ビジネススクール(京都)	2 明神 知	(株)オービス総研	MITスローン・スクール「ビジネス・ダイナミクス」受講報告
出席者数	36名	3 切東美子	同志社大学	医療の人的資源(医師の需給バランス)
担当役員・幹事	小池、栗本、西川、福島	4 小池昇司	リコーエレメックス(株)	グループでのSDモデル構築プロセスの開発
		5 池田 誠	東洋大学	SDとMASによるコラボ型世界モデル
		6 辻 稔郎	大阪国際大学	Vensim PLEを用いたWeb Based GDSS

2008年度 編集委員会活動報告

編集委員長 福田 敦

1. 編集委員会の設置

(1) 編集委員長の任命

森田道也会長が、理事の中から福田敦を編集委員長として任命し、総会において承認された。

(2) 編集委員の委嘱

会長が、下記の会員に編集委員を委嘱した。

内野明(理事)、海老根敦子(理事)、田中伸英(理事)、森田道也(会長)

(3) 編集委員会担当幹事の委嘱

会長が、下記の会員に編集幹事(編集委員会が学会誌の編集・発行を行う作業を補佐する者)を委嘱した。

石坂哲弘、Atit Tippichai、岡村誠、谷亮太、金子翔一(平成21年3月31日まで)、池下英典(平成21年6月1日より)、鈴木元太(平成21年6月1日より)

2. 学会誌研究論文審査手順の変更

添付資料1に示す通り、カンファレンスでの発表論文の投稿と学会誌への研究論文投稿を分離し、学会誌研究論文の審査手順を新しく作成し、理事会に報告した。

3. 学会誌研究論文審査

(1)学会誌の審査手順に則り学会誌研究論文を公募し、5編のアブストラクトの投稿があり採択した。最終的には4編の研究論文の投稿があり、審査の結果4編とも採択した。

査読委員は、編集委員長が下記の14名の会員に委嘱した。

雨宮隆、和泉潤、内野明、落合以臣、末武透、鈴木信幸、竹内智、辻稔郎、富樫慎一、豊島雅和、

西嶋尚彦、野田英志、伊東秀幸、山内昭、

(2)カンファレンスで発表した論文の中から学会誌研究論文への投稿希望があった論文及び学会誌研究論文推薦委員会が重要と認めた論文を審査し、学会誌研究論文として3篇を、研究ノートとして1篇を採択した。なお、学会誌論文推薦委員は、編集委員長が、学会参加者を中心に下記の会員に委嘱した。

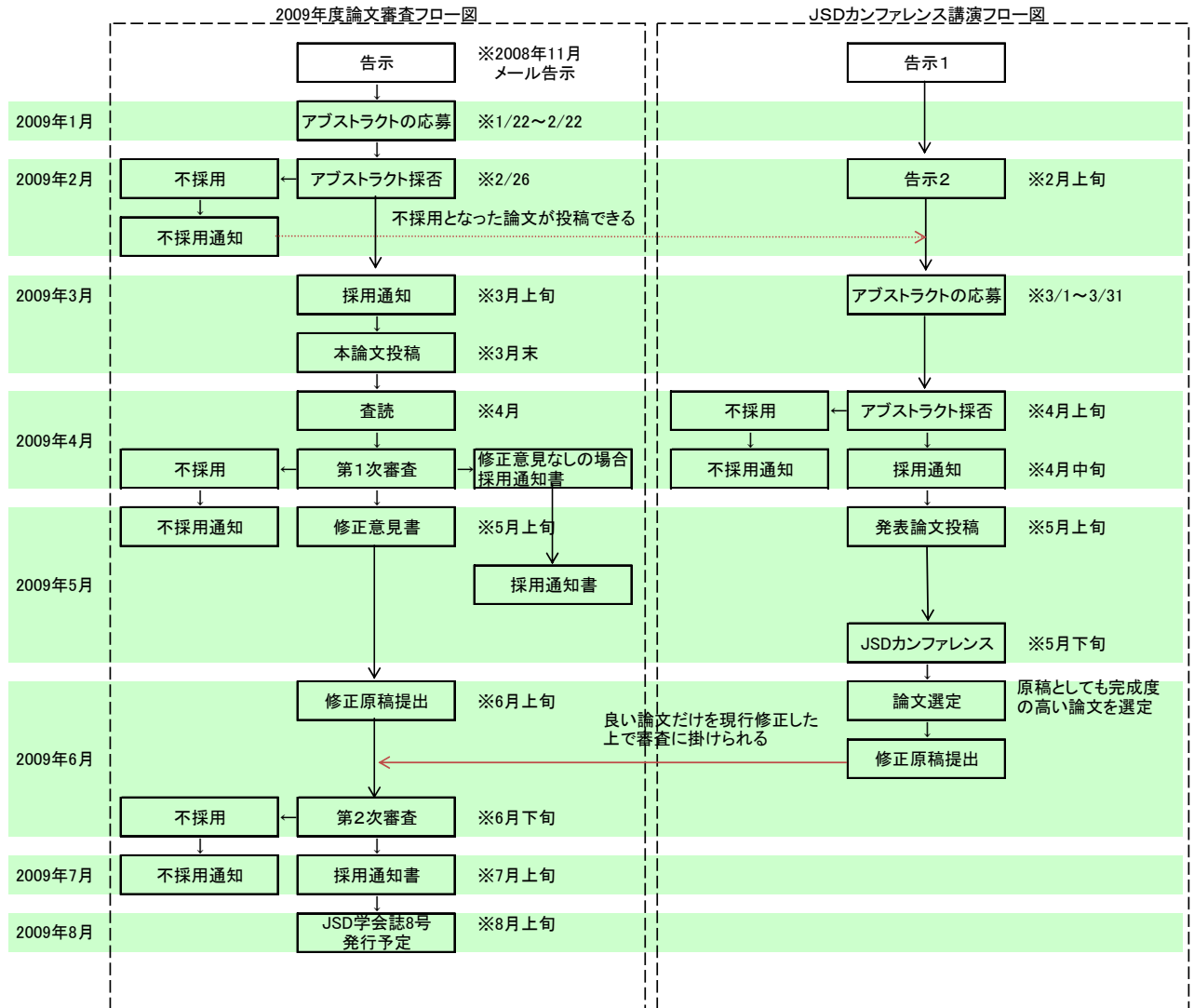
内野明、栗本英和、田中伸英、福田敦、森田道也、山内昭、

4. 学会誌の印刷・発行

学会誌の印刷業者を選定し、添付資料2に示す目次にしたがって印刷、8月31日に発行予定である。

以上

添付資料 1 (2008 年度編集委員会活動報告)



添付資料 2 (2008 年度編集委員会活動報告)

システムダイナミクス Vol.8 2009 目次案

研究論文

- SD マクロ経済モデルの展開 小林秀徳
- ビジネスにおける不安定性の原因に対する仮説の検証 松本憲洋
- 日本のものづくりは本当に強いのか？ー因果ループ図とSDによる検証ー 福島史郎
- サブ・テーマの評価ーフィリピン農業プロジェクトを例にー 末武透
- 四大文明のシミュレーション・モデルの研究 池田誠
- 農村社会におけるバイオマスエネルギーの生産と運輸部門エネルギーへの利用 小山瑞樹・野口良造
- SD による鉄鋼のマテリアルフロー解析 重野芳人

研究ノート

- AISAS マーケティングプロセスのモデル化 近藤史人

学会情報

- JSD CONFERENCE 2009 開催報告(新)
- JSD 研究会(首都圏、全国区) 活動報告(新)
- 研究分科会 活動報告(新)
- システムダイナミクス学会日本支部規約
- メーリングリストの使用手順
- JSD 入会のご案内と入会手続

研究分科会の活動報告(1)

研究分科会名称 ビジネス・プロセス・モデリング(BPM)研究分科会

主査 森田道也(学習院大学)

幹事 松本憲洋(POSY Corp.)

メンバー 伊藤良之、浅井俊克、佐保田英司、福田信孝、明神知、小池昇司、近藤史人、山口庸一、蓮尾克彦、坂倉省吾、重藤進二、高橋信補、渡邊恵、西岡太郎

活動報告 本研究分科会は、2002年7月から活動を開始し、毎年更新してきた。基本的な方針は、研究対象をビジネス領域に設定することと、システムダイナミクスはメソドロジであることから、参加者の所属するビジネス領域で活用できる応用研究に取り組む事である。今年度もその基本方針の下で各人が研究を進め、途中経過を含む成果を研究分科会で発表して、参加者が熱心に討論した。研究成果については、JSDカンファレンス2009で4本の論文を発表し、経営情報学会2008年秋季年大会で1本の論文を発表した。

期日・時刻	2008年9月17日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	明神 知	オージス総研	MIT Business Dynamics 受講報告
出席者数	14人	2	出席者		各人の2008年度研究計画の説明

期日・時刻	2008年10月8日 18時30分-20時30分	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	Jose A.D. Machuca	セビリア大学	ビジネスの複雑性をいかに取り扱うかを経営者に示す手段としてのシミュレーターの効用
出席者数	15人	2			

期日・時刻	2008年11月19日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	蓮尾克彦	テブコシステムズ	企業内人材育成投資効果(ROI)のBSCモデル
出席者数	11人	2	浅井俊克	大和総研	システム・ダイナミクスによる組織の分権化に関する考察

期日・時刻	2008年12月17日 18時30分-20時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	松本憲洋	POSY	サプライチェーンとしての視点で改めてビールゲームをながめてみる
出席者数	12人	2			

期日・時刻	2009年1月21日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	渡邊 恵	三木産業	新春ライブ システム・シンキングによる課題解決
出席者数	11人	2			

期日・時刻	2009年2月18日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	森田道也	学習院大学	High Performance Companyの経営論理の研究
出席者数	13人	2	佐保田英司	日立コンピュータ機器	SDを用いたBSCの実践的解釈について

期日・時刻	2009年3月18日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	佐保田英司	日立コンピュータ機器	SDを用いたBSCの実践的解釈について 〈〈2月の続き〉〉
出席者数	11人	2	浅井俊克	大和総研	「学習する組織」のモデル化

研究分科会の活動報告(2)

研究分科会名称 ダイナミックシステム・モデリング(DSM)研究分科会

主査 近藤史人

幹事 小池昇司

メンバー 近藤史人、小池昇司、松本憲洋、細川敏宏、神田之裕、笹川昌志、栗本英和、古川忠始、吉田信人、小川節男、早川之尚、手塚博之、高木浩之、弘中史子、早川剛史、金子慎一郎、野屋知絵美、坪谷聡志、則竹俊宏、佐藤均、中野祥、永田紘子、中野まり絵、西川太一、佐藤嘉洋

活動報告 毎回、システムシンキングトレーニングブックからテーマをひとつ選び、ケースを設定しコーザルループの作成、モデルの作成を実習として行う。参加者の実ビジネス、もしくは実課題をテーマとして取り上げ、そのモデルを作成し、議論する。今年は、この2タイプの活動に集約されてきた。特別ゲストとして松本憲洋氏をお招きし、特別講演会も行った。また、昨年の活動を通じて、DSM研究分科会から新規JSD会員となったものが数名でた。

期日・時刻	10月25日(土)15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名	
場所	リコーエレメックス株式会社	1	近藤史人	日本HP	STのアーキタイプによる実習、実務課題	
出席者数		9	2	小池昇司	リコーエレメックス	STのアーキタイプによる実習、実務課題

期日・時刻	11月29日(土)15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名	
場所	リコーエレメックス株式会社	1	近藤史人	日本HP	STのアーキタイプによる実習、実務課題	
出席者数		4	2	小池昇司	リコーエレメックス	STのアーキタイプによる実習、実務課題

期日・時刻	1月24日(土)13:30~17:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	名古屋大学	1	松本憲洋	POSY	特別講演:サプライチェーンの不安定性
出席者数		13	2		

期日・時刻	3月28日(土)15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名	
場所	名古屋大学	1	近藤史人	日本HP	STのアーキタイプによる実習、実務課題	
出席者数		8		小池昇司	リコーエレメックス	STのアーキタイプによる実習、実務課題

JSDカンファレンス2008

JSDカンファレンス2008の開催報告

名称: 島田俊郎先生記念 JSD カンファレンス2008

期日: 2008年5月31日(土)13時~17時

場所: 学習院大学 南3号館 104室

参加者数: 52人(会員30名、非会員22名)

主催: システム・ダイナミクス学会日本支部(JSD)

担当: カンファレンス準備委員会(事務局中心)

講演案内:

今年度は2007年3月31日にご逝去された本会の生みの親であり、初代の会長として本会の礎を築いていただいた島田俊郎先生を記念して、カンファレンスを開催し、6件の発表があった。

プログラム:

- 13:00-13:10 JSD 会長挨拶
森田道也(学習院大学)
- 13:10-13:45 成熟市場におけるイノベーションによる成長の限界打破のモデル
近藤史人(日本ヒューレットパカード株式会社)
- 13:45-14:20 プロセスマネジメントによる販売の効率化
小池昇司(RICOH ELEMEX CORPORATION)
- 14:20-14:55 CO2削減インセンティブプログラムのシミュレーションモデルの開発
堀野 聡(日本ヒューレットパカード株式会社)
- 15:05-15:40 反少子化戦略に関する SD 人口モデルの意義と政策科学への貢献
小林秀徳(中央大学)
- 15:40-16:15 寿命分布を伴うストックとフローへのシステム・ダイナミクスモデルの適用
重野芳人(東北大学)、秦燕春(東北大学)
- 16:15-16:50 日本における SD 研究と新しい方向性の考察
末武透(日本未来研究センター)、池田誠(東洋大学)、
中村州男(NPO 情報化ユートピア)
- 17:00-17:30 JSD 総会

JSDカンファレンス2009

JSDカンファレンス2009の開催報告

統一テーマ: 「百年に一度の経済危機を克服する持続可能なマネジメント」

期日:2009年5月23日(土) 10時20分~18時00分

場所:名古屋大学環境総合館 レクチャーホール

主催:システム・ダイナミクス学会日本支部(JSD)

担当:カンファレンス準備委員会(全国区研究会担当と事務局の合同)

協賛:社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 経営情報学会, ビジネスモデル学会

参加者数:60人(JSD会員32人 会員以外28人)

開催趣旨:

JSD CONFERENCE は、今年度から隔年で、首都圏以外で開催することになり、今年度は名古屋大学で開催した。昨年秋から世界は未曾有の経済危機の中にあり、今年度の JSD CONFERENCE では、「百年に一度の経済危機を克服する持続可能なマネジメント」と題して、SDによる可能性を統一テーマとした。以下のプログラムに記したように経営、教育、環境、政策の各分野で、計12編の論文が発表された。

プログラム:

9:50-10:20 受付開始

10:20-10:30 大会委員長挨拶 栗本英和(名古屋大学)

<第1セッション:教育・環境> 司会 渡部淳一(法務省)

10:30-11:00 e-Learning における学習行動のモデリング

○西川太一*、則竹俊宏*、中野まり絵*、栗本英和*(*:名古屋大学 大学院環境学
研究科)

11:00-11:30 減速航行によるコンテナ船からの二酸化炭素排出削減予測

○町田聡*、森山敦司**、石田憲治*

(*:神戸大学大学院 海事科学研究科 **:神戸大学 海事科学部)

11:30-12:00 農村社会におけるバイオマスエネルギーの生産と運輸部門への利用

○小山瑞樹*、野口良造*(*:宇都宮大学農学部)

<第2セッション:政策> 司会 山内昭(尾道大学)

13:00-13:30 システムダイナミクスによる名古屋市下水道モデルの構築と環境改善対策シミュレーション

○長尾征洋*、渡会育也*、佐野 充*、栗本英和*

(*:名古屋大学・大学院環境学研究科)

13:30-14:00 クラスタ構築による地域経済活動への影響のシミュレーション

○西村真太郎*、石田憲治*(*:神戸大学大学院海事科学研究科)

14:00-14:30 経済危機克服のためのマクロ・マネジメント・モデリング

○小林 秀徳(中央大学・総合政策学部)

<第3セッション:経営> 司会 前半:蓮尾克彦(テプコシステムズ)

後半:森田道也(学習院大学)

14:45-15:15 日本のものづくりは本当に強いのか? -因果ループ図とSDによる検証-

○福島 史郎(同志社大学・大学院総合政策科学研究科)

15:15-15:45 AISAS マーケティング・プロセスのモデル化

○近藤 史人(株式会社ディー・ピー・エス)

15:45-16:15 ビジネスにおける不安定性の原因に対する仮説の検証

○松本 憲洋(POSY Corporation)

16:15-16:45 戦略に合わせたサプライチェーンの設計と改革施策策定

○小池 昇司

16:45-17:15 システムダイナミクスを用いた船舶の燃料使用量予測モデルの構築

○光藤春樹*、西村真太郎*、有馬英利**、石田憲治*

(*: 神戸大学大学院海事科学研究科 **:ADM)

17:15-17:45 モデルベースIT投資マネジメント

○明神 知*、磯部 大*(*:株式会社オーグス総研)

17:45-18:00 講評

システムダイナミクス学会日本支部会長 森田道也(学習院大学)

System Dynamics Society

“第26回SD国際会議に参加して”

2008年9月1日

山口 薫 (JSD 国際担当理事, 同志社ビジネススクール教授, Ph.D.)

1 参加者

第26回システムダイナミクス国際会議(The 26th International Conference of the System Dynamics Society)が、7月の20日から24日までの5日間にわたって、ギリシャのアテネで開催されました。会場はアクアポリスの丘の近くにあるアテネインターコンチネンタルホテルで、夜はライトアップされた世界遺産、パルテノン神殿が夜空に威風堂々と浮かびあがるのが眺望できる学界にはちょっと贅沢な空間でした。地中海性の快適な気候に誘われて、早朝から1、2時間かけてアクアポリスまで散歩に出かけた参加者も少なからずいたようです。

以下は、私見を交えたこの学会への参加報告(感想)です。昨年度は、ボストンにてSDの第50周年記念大会が、500名を超える参加者をえて、華々しく開催されました。それを受けての今年度の学会でしたので、昨年度に燃焼しきりその燃え殻のような雰囲気になるのは否めませんでした。事実、今年度の参加者は48カ国386名と少なめでしたが、むしろ平年並みと表現したほうが適切かも知れません。参加者のうち、26%が初めての参加で、また学生の参加者が31%だったそうです。アテネという地の利もあり、ヨーロッパからの参加者がかなり多いという印象をもちました。

目下、ヨーロッパの4つの大学が共同してSDの修士過程プログラム(European Master in System Dynamics)を立ち上げようとしています。ベルゲン大学(ノルウェー)、ランド大学(スウェーデン)、ラドボード大学ナイメゲン(オランダ)の4キャンパスを受講生が巡回訪問しながら、SDを学ぶというプログラムです(ランド大学を除く他の3大学は、SDの過去の国際会議ホスト校です)。こうした新しい試みが、SDの認知度を高め、今回学生参加が増えた一因となったのかもわかりません。

そんな中で今回残念だったのは、日本人の参加者がわずか2名で、そのうち小塩篤史さん(日本医科大学)はMIT留学先からの参加でしたので、日本からは事実上私1名の参加であったということです。私は1997年のトルコイスタンブールでの第15回大会から毎年欠かさず参加しており、今年度で12回目の参加となりましたが、日本からの参加者がこんなに少ない大会は初めての経験で、寂しいというよりも、開催期間中ずーと日本支部からの参加者激減のシステム構造に思いを巡らしていました。

SDSの会員の傾向については、Dr. James Lyneisが会長講演にて簡単に分析していましたが、ビジネス・コンサルタント関連の会員が過去5年間で10%程度減少傾向にあり、逆にアカデミック会員が順調に増加しているとのことでした。年齢構成もエイジング傾向にあり、若手会員の増加が伸び悩んでいるとのことでした。

2 研究報告

今回の会議での研究報告は、持続可能な社会、自然エネルギー社会への移行、CO₂削減戦略等といった地球環境モデル、及び医療・保健関係モデルといった2分野が顕著なトレンドであったように思えます(勿論、私1名の情報収集力には限界がありますが)。地球環境モデルは、ヨーロッパの研究者の報告が多く、ヨーロッパでの環境問題に対する関心度の高さを再確認させられたような思いでした。医療・保健モデルはアメリカの研究者が多く、米国が抱えている社会保険・医療制度の過度の民営化にともなう市場の失敗、及びその社会問題化が反映されているような気がしました。翻って社保庁(厚労省モデル)問題で揺れる日本の国民健康保険制度等のシステム構造を、SDモデルで分析している研究者は皆無に近いような我が国の研究状況に一抹の寂しさを禁じ得ませんでした。この分野における国内でのSDモデル研究、政策提言が早急に望まれます。そんな中で、若手研究者小塩さんのポスターセッションでの報告“Physician’s Burning Out and Human Resource Crisis in Japanese Hospital: Management for Sustaining Medical Services in Japan”に元気づけられました。今後の我が国における医療・保健SD研究の先駆けとなることを念願しています。

私は、国際マクロ経済部会で、“Open Macroeconomies as A Closed Economic System – SD Macroeconomic Modeling Completed”というタイトルで研究報告を行いました。筆者自身の論文をこの報告で取り上げるのは不適切かも知れませんが、過去6年間の区切りとなる研究ですので、一言付言させていただきたいと思います。私は、複式簿記とSDを組み合わせた独自の「会計システムダイナ

ミクス」というSD モデリング手法を2003年のニューヨークでの大会で発表し、この手法に基づいて、2004年から毎年マクロ経済モデルシリーズをSD 学会で報告し続けてきました。今年のシリーズ第5回目の報告で、やっと開放マクロ経済モデルの完成となりました。このSD マクロモデルに立脚したマクロ経済学の動学的方法論は、従来のマクロ経済学のパラダイムを根底から変革するようなものになると確信しております。今回の研究報告を機会にこのモデル(834式)を公開し、広くユーザからのコメントを求め、さらなる改良を重ねてゆくことにしました。(詳細はSDS のWeb から論文をダウンロードください)。

数年前から恒例となっている会議前日に開催される博士課程予備論文発表会(Ph.D. Colloquium) も、会場が溢れんばかりの盛況で、Ph.D. 候補者の登竜門のような役割を担いながら、年々充実してきているように思えました。昨年度の第50周年記念大会でこれまでのSD が燃え尽きたようでしたが、そうした燃えがらの中から新しい芽が、地球環境、医療、教育といった分野で吹き出し始めているようで、そうした意味では、まさにSD 新元年と位置づけられるような研究報告の数々でした。

ジェイ・フォレスター賞

そうした研究報告の輝ける結晶が、毎年発表されるジェイ・フォレスター賞で、今年度は、ハーバード大学公共保健大学院(School of Public Health) の女性研究者Dr. Kimberly Thompson とDuintjer Tebbens の共著“Eradication versus Control for Poliomyelitis: An Economic Analysis” が受賞となりました。脊髄性小児麻痺(ポリオ)の撲滅を地球規模で短期間に一気に行う政策は一見高くつくように見えるが、WTO 等が長期にわたってポリオの蔓延をコントロールし続けるような政策費用に比べれば、撲滅費用は大幅に低くなるという結果を、SD モデルを駆使しながら見出した点が高く評価されたようです。Dr. Thompson は、ジョン・スターマン教授の指導を受けながら、MITのSD Group の研究仲間とも積極的に研究交流を続けていたようで、私がMITを訪問した際にも、スローン経営大学院で「SD入門」科目を教えていました(もし私の記憶が間違っていなければ)。

この受賞が契機となり、前述した米国における医療問題の深刻化と相まって、今後医療・保険分野に於けるSD研究の裾野が広がってゆくことになるでしょう。

3 支部/SIG 活動

SIG/Economics Chapter SDS におけるチャプター(支部)は、研究分野に立脚したSIG (Special Interest Group) と国別の支部(National Chapter) の2つに大別されます。今回、私はSIG の一つである経済学チャプターの会長に選出され、今後1年間経済学研究に於けるSD モデルの活用、応用研究活動をひっぱりたくてゆくことになりました。同支部は、約80名のSDS メンバーがリストアップしているかなり大きな支部です。今回のアテネ会議では、“Global Economic Outlook” というラウンドテーブルを企画し、ヨーロッパ、北米、南米、アジアといった4つの地域からそれぞれパネリストを選んで報告・質疑を展開しました。私はアジア(特に日本)の経済見通しについて、IS-LM分析の因果ループ図を援用しながら報告しました。日本支部に於いてもSD を用いた経済学研究が活発になることを念願しています。

ナショナル支部

はからずしも今回私は、Economics Chapter とJapan Chapter の2つの支部代表として、Chapter/SIG 代表者会議に参加する羽目になりました。司会はオーストラリアのTim Haslett です。代表者会議には約20名が参加し、いろいろな話題に話が及びましたが、今回は特にナショナル支部の運営の仕方、支部からの国際会議参加について議論が収斂されてゆきました。運営方法については、学会費を徴収して季刊誌も出版しているようなきちんと組織化された日本支部から、会費もなく任意の集まりのような支部、また南米のように数力国で支部を形成しているようなものまで、千差万別の運営がなされていることを初めて知りました。

日本支部のように国内で約100名を超える支部会員を抱えていながら、なぜいつも国際会議への参加が少ないのか(今回は2名)と質問され、“That ‘s the problem!” と答えざるをえませんでした。8月22日現在で114名の支部会員だそうですので、こうした支部の規模からすれば毎年少なくとも10名程度の参加が望まれます。同時に、正式の支部として認証される有資格条件はSDS 会員20名とのことです。果たして日本支部に現在もこれだけのSDS メンバーがいるかどうかは、今後の検討課題だと思いました。

Asian/Pacific SD Forum

私がかねがね、日本支部からの参加が少ない原因の一つが言語障壁であり、他は遠隔地参加費用であると思っており、そうした障壁を取り除くためにも、もう少し気軽に参加できる会議が中間にあってもいいのではと考えていました。欧米のSD 軸に対して、アジアのSD 軸もあってもいいのではとの思いもあり、今回、アジア・太平洋SD フォーラムの開催を提案しました。司会のTim Haslett がこの案をかなり積極的に支持してくれ、その後彼の働きかけで、オーストラリア支部会長のMark Heffernan や韓国支部会長のLee Man-Hyungがこれに賛同を表明してくれることになり、目下2010年の韓国での国際会議でこれを実現させるべく話が進行中です。こうした英語を母国語としないアジア・太平洋地域からの参加者中心のSD 会議であれば、日本支部からも気軽に参加していただけるメンバーが増えるのではと期待しております。こうした会議開催にご賛同をいただければと存じます。

これに関連して、韓国のLee 会長から、2010年開催予定のSD 韓国国際会議の運営委員会への参加を要請され、2010年京都会議を提案した経緯もあり、また国際交流促進という国際担当理事としての業務遂行のために受諾いたしました。

以上、簡単ですが参加報告といたします。

5. 2009 年度事業計画

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

5. 1 JSD 研究会

5. 1. 1 JSD 研究会(首都圏)

- (1)担当:小林秀徳(顧問)、渡部淳一(理事)、藤本ヒトシ(幹事)
- (2)開催場所:東京
- (3)開催時期:2009 年 10 月～2010 年 3 月 土曜日午後 合計 6 回
- (4)詳細 :添付資料—1

5. 1. 2 JSD 研究会(全国区)

- (1)担当:栗本英和(理事)、小池昇司(理事)、福島史郎(幹事)、西川太一(幹事)
- (2)主催:同志社大学ビジネススクール(DBS)SD グループと JSD とで共催する。
- (4)開催場所:京都・同志社大学ビジネススクール
- (5)開催時期:2008 年 11 月 21 日(土)
10:30 ～ 12:00 経営SDワークショップ
13:15 ～ 17:30 JSD研究会
- (6)発表論文募集開始:2008 年9月初旬
- (7)詳細 :添付資料—2

5. 2 JSD 学会誌発行

- (1)担当:編集委員長 福田敦(理事)、
編集委員 内野明(理事)、海老根敦子(理事)、田中伸英(理事)、森田道也(会長)、
編集担当幹事 石坂哲宏(幹事)、Atit Tippichai(幹事)、岡村誠(幹事)、
谷亮太(幹事)、池下英典(幹事)、鈴木元太(幹事)
- (2)事業概要
発行回数:1回/年
発行時期:2010 年 6 月
内容:査読論文、研究ノート、活動報告、その他
ページ数:150 ページ
発行数:250 冊
販売価格:2,500 円/冊
- (3)スケジュール
告示 :2009 年 9 月
アブストラクト募集開始 :2009 年 11 月
採用決定通知 :2009 年 12 月
論文締切り :2010 年 1 月
査読 :2010 年 2 月
掲載決定通知 :2010 年 3 月
発行 :2010 年 6 月
- (4)査読委員:福田敦編集委員長が査読委員を選任して JSD 公式のメーリング・リストでその人名を公表する。
- (5)詳細:添付資料—3

5. 3 研究分科会の活動促進

- (1)担当:全役員
- (2)目標と活動方針
3つ以上の研究分科会が活動を開始することを目指す。研究分科会の活動に参加する非会員が SD に関する実用的な価値を理解して、JSD に入会するきっかけとなることを期待する。そのために、初年度に限り JSD 会員以外も研究分科会のメンバーとして登録できることとす

る。JSD 会員以外の登録については、研究分科会の主査の管理下において実施する。

5. 4 JSD カンファレンス開催

(1) 担当: 事務局を中心にカンファレンス運営委員会を組織して実施する。

(2) 開催場所: 学習院大学

(3) 開催時期: 2010 年 4 月 24 日(土)

(4) スケジュール

2009 年 12 月 発表論文(要旨)の募集開始

2010 年 1 月 31 日 採否の発表

2010 年 3 月 10 日 発表論文(予稿集)の締め切り[厳守]

2010 年 4 月 1 日 発表論文(予稿集)の採否の通知

5. 5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進

(1) 担当: 山口薫(理事)

(2) 活動方針: 2009年の第28回SD学会は、韓国で開催されますが、現時点で決まっているのは、以下の統一テーマのみです。

Beyond the Crisis: Greening Economy, Society and Futures

詳細は、7月29日(水)午前10時より、アルバカーキ、ニューメキシコでの第27回国際大会の会場にて開催予定の実行委員会で協議することになっていきますので、判明次第、ご報告いたします。

なお上記参考資料の最後にあります「Asian/Pacific SD Forum」の提案についても現時点では未定です。

5. 6 SD 普及に向けた Web の充実

(1) 担当: 近藤史人(理事)

(2) 活動方針:

全般的に古くなっているコンテンツを見直し、最新の情報に更新する。

新しい情報は、可能な限り早急に更新する。

5. 7 総会の開催

(1) 担当: 事務局長(総務担当理事)、事務局担当理事

松本憲洋、小池昇司、近藤史人、蓮尾克彦、明神知、渡部淳一

(2) 2010 年度総会開催期日:

2010 年 4 月 24 日(土)に JSD カンファレンス 2010 に合わせて開催する。

5. 8 運営体制

2008 年度に同じ。

6. 2010~2011 年度会長選挙計画

2 月 1 日 選挙人・被選挙人名簿の確定(JSD会員名簿 2010 年 1 月 31 日現在)

2 月 1 日~2 月 20 日 次期会長候補の推薦

3 月 1 日~3 月 8 日 次期会長選挙

3 月 15 日 理事会において開票・当選者決定

7. 2009 年度予算

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

	2008年度	2009年度
収入の部		
前期繰越金	2,077,071	2,132,257
個人会費	500,000	500,000
賛助会費	50,000	50,000
出版物売上	100,000	100,000
雑収入	0	0
当期収入合計	650,000	650,000
収入の部合計	2,727,071	2,782,257
支出の部		
通信費	100,000	100,000
印刷費	100,000	100,000
事務用品費	15,000	10,000
講師謝金	50,000	50,000
交通費	5,000	5,000
雑費	30,000	30,000
会議費	20,000	10,000
研究会(首都圏)補助費	50,000	50,000
研究会(全国区)補助費	50,000	50,000
研究分科会補助費	50,000	50,000
アルバイト謝金	20,000	20,000
学会誌印刷費	350,000	400,000
前年度未処理分	0	0
事務所賃貸料	24,000	24,000
当期支払合計	864,000	899,000
次期繰り越し	1,863,071	1,883,257
現金残高		
預金残高		
未払い金		
支出の部合計	2,727,071	2,782,257

8. 2009 年度事業計画 詳細説明資料

添付資料－1 JSD研究会(首都圏)

(1)担当

小林秀徳、藤本ヒトシ、渡部淳一

(2)事業戦略

社会が複雑化する中で、SD が社会において果たすことのできる役割が拡大しているものの、SD に興味を持つ人が SD を学ぶことができる環境に限られている。

そこで、JSD 研究会(首都圏)では、①SD に興味を持っているものの、これまで本格的に学習する機会がなかった初心者や②SD について一通り学習しているものの、さらに知識を深めたい人を対象として、SD についての基礎知識を習得し、それを活用する場を提供し、SD の普及及び活性化を促進する。

(3)成長指針

上記事業戦略のとおり、SD 初心者等を対象とした研究会とすることにより、新規会員の勧誘及び既存会員の定着に貢献することが見込まれる。

(4)事業内容

以下の表のとおり、定期的に研究会を開催する。

内容は、学会誌(System Dynamics Review 又はシステムダイナミクス)から適宜の論文を選択し、その内容を発表者が紹介するとともに、参加者の間で議論することを予定している。対象者は、上記(2)のとおり、①SD に興味を持っているものの、これまで本格的に学習する

機会のなかった初心者や②SD について一通り学習しているものの、さらに知識を深めたい人とし、常時20人程度の出席者を見込んでいる。

	発表者	開催時期	開催場所
1	小林	10月	未定
2	渡部	11月	未定
3	未定	12月	未定
4	未定	1月	未定
5	未定	2月	未定
6	未定	3月	未定

※ 開催日時は、土曜日午後を予定している。

※※ 3回目以降の発表者は、参加者の中から希望者を募ることとする。

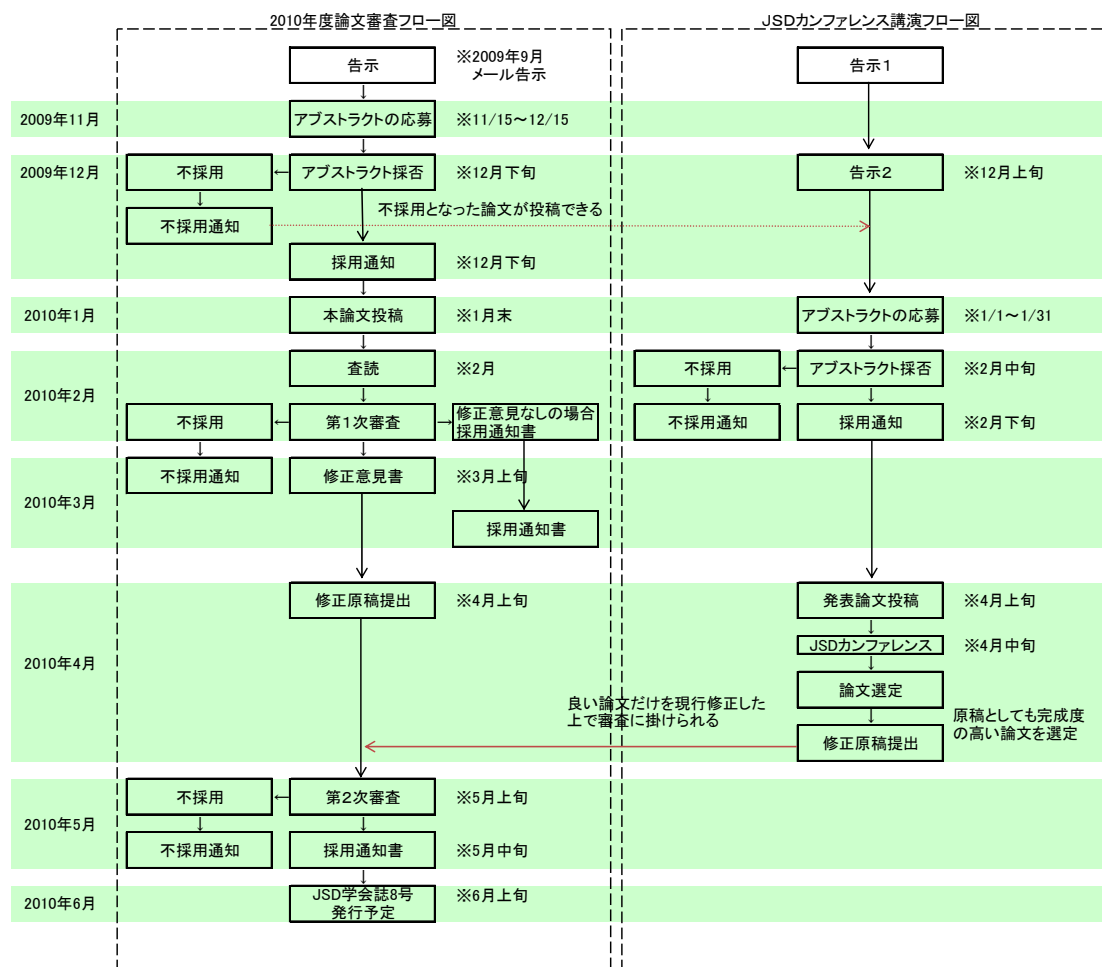
(5) 予算

50,000 円

添付資料-2 JSD研究会(全国区)

1. 開催日時：2009年11月21日(土)： 予定
10:00~12:00 SDワークショップ
13:15~17:30 JSD研究会
2. 開催場所：同志社ビジネススクール KMB319教室(予定)
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
<http://BS.Doshisha.ac.jp/>
地下鉄「今出川」駅下車、徒歩1分 京阪「出町柳」駅下車、徒歩15分
3. 主催 : システムダイナミクス学会日本支部(JSD)
同志社ビジネススクール システムダイナミクスグループ(DBS-SDG)
協賛 : NPO法人日本未来研究センター
4. 開催形式
 - ・午前中はパソコンを用いて、DBS経営システムダイナミクスワークショップを行います。
 - ・午後はJSD研究会全国区および同志社ビジネススクール システムダイナミクスグループとして、研究結果の発表の場とする。併せて、JSD会員の募集を行う。
 - ・発表件数は6件を予定する。参加者の規模は30人(2008年と同規模)を目標とする。
5. 運営体制
 - ・運営責任者 : 山口 薫(DBS, JSD)
 - ・幹事 : 福島史郎(DBS-SDG, JSD)
 - ・運営委員 : 小池昇司(JSD)、栗本英和(JSD)、西川太一(JSD)
DBS-SDGより若干名
 - ・プログラム委員長 : 栗本英和(JSD)
 - ・プログラム委員 : 山口 薫(DBS, JSD)、小池昇司(JSD)
 - ・参加者 : どなたでも参加できます。参加料は無料とする。
6. 日程計画
 - ・発表者募集時期：2009年9月1日から1ヶ月間 締め切り後プログラム委員会で選考
 - ・参加者募集期間：2009年11月1日から受付、定員(41名)になり次第締め切る。
 - ・ワークショップの内容の決定 : 運営責任者の意向を反映して10月末までに決める。
7. 広報方法
 - ・JSDのホームページ、DBS-SDGからのメールにより集客する。
 - ・特徴であるワークショップによるSD活用のスキルアップを訴求ポイントとする。
8. 予算 : 配布用印刷物製作費として50,000円

添付資料—3 JSD学会誌発行



添付資料—4 昨年度までの学会誌構成一覧

	Vol.1	Vol.2	Vol.3	Vol.4	Vol.5	Vol.6	Vol.7	Vol.8
巻頭言	○		○		○		○	
特集			○ 9件	○ 4件	○ 10件			
研究論文	6件	7件	3件		2件	4件	4件	7件
講演論文				1件		9件	5件	
その他	○ 書評	○ 翻訳	1件 研究ノート	○ 書評				1件 研究ノート
学会情報 (規約等)	○	○	○	○	○	○	○	○

【参考】

システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものを言う。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および会長がその必要を認めたとき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めたときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員を選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員の2分の1以上とする。

第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。
〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12-104 藤和半蔵門コープ1F POSY Corp. 内
システム・ダイナミクス学会日本支部事務局
Tel&Fax 03-3512-5358
- 2 事務局は理事 (総務担当) と幹事で構成し、理事 (総務担当) が事務局長を務める。

付 則 1 第10条の規定にかかわらず、支部発足時の役員任期は1991年12月31日までとする。

- 2 本内規は1990年9月22日より発効する。
- 3 1991年7月22日一部改正 4 1992年2月17日一部改正 5 1995年3月13日一部改正
- 6 1996年3月29日一部改正 7 2003年2月12日一部改正 8 2004年1月31日一部改正
- 9 2005年4月2日一部改正
- 10 第14条の規定にかかわらず、2005年度会計年度は、2005年1月1日から2006年3月31日までとする。

システム・ダイナミクス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第1条 この細則は「システム・ダイナミクス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第2条 会長の選出は次の各項による。
- 1 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末45日以前に、14日間の期間を設定して求める。
 - 2 5名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。
推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)
被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、
JSD会長としての目標・抱負(400字以内)
 - 3 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の14日以前に7日間の期間を設定して実施する。
 - 4 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第1位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
 - 5 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
 - ① 提案者：研究分科会の設立提案をサロン・メールで発信
 - ② 全会員：サロン・メールによる意見交換とメンバー募集
 - ③ 提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
 - ④ 会長による承認
 - ⑤ 研究分科会活動開始
2. 諸規定
 - (1) 設立条件
5名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的がJSDの活動主旨に沿い、JSDの研究・普及活動を活発化させる可能性が認められるとき、会長は研究分科会の設立を承認する。
 - (2) 参加資格
研究分科会の活動に貢献するJSD会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
 - (3) 研究分科会の組織と運営
分科会には主査と幹事をおき、事務局が設定した分科会専用のMLの管理も自主的に行う。
 - (4) 研究分科会の権利と義務
 - ① 分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
 - ② 研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
 - ③ 少なくとも年1回以上はJSD研究会等で発表する。
 - ④ 会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに事務局に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会の上限は別に定める。
3. 研究分科会の設立申請様式
メンバーリストを入力したExcelファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。
事務局：jsd-office@yahoogroups.jp

分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日：
申請者：
名称：研究内容が推測できる研究分科会の名前
共同申請者：添付するExcelファイルに5名以上のJSD会員名を記載
趣旨：研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に記載
研究内容：研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載
研究体制：研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に記載

メンバーリストのExcelファイルには、代表世話人を含めて下記情報を記載。
名前、e-mailアドレス、所属機関名

編集委員会細則

- 第1条 (目的)
当日本支部規約第2条に定める事業を行うために、編集委員会を設ける。
編集委員会は、当日本支部で発行する学会誌の発行に関する諸事項の決定およびそれらの処理事項を実施する。
- 第2条 (委員会の構成)
編集委員会の構成は次の通りとする。
編集委員長 1名
編集副委員長 1名
編集委員 若干名
- 2 編集委員長と編集副委員長は当日本支部の会長が理事会メンバーの中から任命する。
- 3 編集委員は編集委員長が当日本支部の会員の中から委嘱する。
- 第3条 (委員の任期)
編集委員長、副委員長、委員の任期は2年間とする。
- 第4条 (委員会の業務)
委員長は編集委員会を招集し、次の事項を審議し処理する。
①学会誌の投稿規定の策定と論文募集
②学会誌研究論文の査読適格者の委嘱と投稿論文ごとの選任
③学会誌の編集に関わる業務
④学会誌の発行・送付に関わる業務
- 第5条 (委員会の報告)
委員長は編集委員会の審議内容、業務遂行内容を理事会に適宜報告する。
- 付則 2005年12月24日から発行する。

学会誌研究論文査読規定

1. 審査の目的
投稿された研究論文が当日本支部の学会誌に掲載するにふさわしいか否かを審査基準に基づき判断する。
 2. 審査基準
投稿された研究論文は、以下の項目に照らして査読者が総合的に審査する。
分野 : システム・ダイナミクスに関連した内容であること。
論理性 : 論旨の展開が明快で、記述が簡潔・明瞭であること。
新規性 : 内容に新たな知見が盛り込まれていること。
信頼性 : 結論等を信頼するに値する客観的な考察が示されていること。
有用性 : 得られた結論・経過が学術領域あるいは実社会において有用であること。
 3. 査読者
編集委員会が指名する2名の査読者が審査基準に基づき審査にあたる。査読期間は編集委員会から送付されて2ヶ月以内とする。査読適格者の氏名は公開するが、個々の投稿論文も対する査読者の氏名は公開しない。査読者と投稿者との直接の接触は許容されず、必ず編集委員会を介する。
 4. 判定
査読者の審査結果に基づき研究論文は以下のいずれかに判定される。査読者の意見が割れた場合には編集委員長がこれを決する。
①そのまま掲載
②指摘事項を修正したことを編集委員長が確認して掲載
③再度差読者の審査が必要
④掲載不可
- ②と判定された研究論文の投稿者には掲載条件が指示される。投稿者が指示に従い修正したことを編集委員長が確認すれば掲載に分類される。投稿者に異論がある場合には、論拠を編集委員長に文書でもって提出し、編集委員会で審議の結果、提出文書が適切であると判断されたなら掲載に分類される。修正が十分でなく、また異論根拠が文書で提出されない場合には④掲載不可に分類される。
- ③と判定された研究論文は、修正後に査読者により出版までの時間が許容する範囲内で審査する。時間切れの場合には、④掲載不可に分類される。

メーリング・リストの使用手順

1. メーリング・リストの概要

メーリング・リストは Yahoo!グループのシステムを使用しています。現在、大きく分けて五種類のメーリング・リストを会員向けに運用しています。

メーリング・リストの種類

グループ	説明
jsd_from_office @yahoogroups.jp	JSDからの案内ML。日本支部主催の催し物、総会の案内等、公式の案内を配信するためのMLです。配信者は原則として事務局です。
jsd-renraku @yahoogroups.jp	事務局への連絡用ML。事務局へメールを送りたい場合は、このアドレスへ送信してください。
jsd-research-meeting @yahoogroups.jp	JSD研究会の開催通知の送付用ML。配信者は担当理事で、全会員に向けて送信されます。
jsd_salon @yahoogroups.jp	ディスカッション用ML。会員が全会員に向けて発信するためのMLです。会員の方であれば自由に配信することが出来ます。
jsdr_*** @yahoogroups.jp	分科会ML。分科会ごとのMLです。分科会内での議論、連絡等に使用します。

2. メールの送り方

メールは上の表の各アドレスを宛名としてメッセージを送信すれば、各メーリング・リストに登録されているメンバーへ一度にメッセージを送ることが出来ます。

例えば、jsd_salon@yahoogroups.jp には全ての会員が登録されていますので、この宛先を指定すると、全会員へメッセージが送信されます。

セキュリティの関係で、**メールには原則としてファイルを添付できません**。添付ファイルはメール本文に含めるか、またはこの後に説明するウェブ・ページ内のブリーフ・ケースにアップ・ロードして、その旨を本文に記載し、読者がそのウェブ・ページを参照する形をとってください。

3. ウェブ・ページの利用

Yahoo!グループでは、各メーリング・リスト毎に専用のウェブ・ページが用意されています。そのページ上で過去のメッセージを確認したり、ブリーフ・ケースを利用したりすることが出来ます。

(1) アクセスの準備

ウェブ・ページの利用には Yahoo! Japan ID の取得が必要となりますので、お持ちでない方は登録をお願いいたします。登録画面へは、下記の Yahoo! グループのトップ・ページから入れます。

<http://groups.yahoo.co.jp>

(2) アクセス

Yahoo! グループを利用するには、上記のページを開いてください。各メーリング・リストに対応するウェブ・

ページのURLは、上記のURLの後ろに、/group/をつけ、

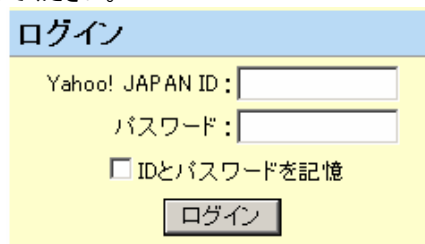
その後に、各メーリング・リストのアドレスをつけます。例えば、左の表の最上段に記載した事務局からの連絡用メーリング・リストの場合には、専用ウェブ・ページのURLは次のようになります。

http://groups.yahoo.co.jp/group/jsd_from_office/

(3) ログイン

専用ウェブ・ページのURLを直接入力するか、または、Yahoo!グループのページから下記の流れに沿って対応するページに入ります。

Yahoo! グループのページを開くと、右側に下図のような Yahoo! JAPAN ID とパスワード(*)を入力する場所がありますので、それぞれを入力し、ログインボタンを押してください。



ログインした画面の右側に、自分が所属している Yahoo! グループの名前の一覧である "Myグループ" が表示されますので、開きたいページをクリックします。

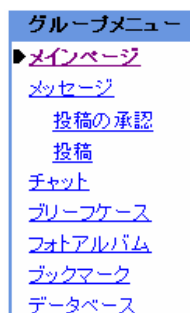
ウェブ・ページの構成の主なもの、トップ・ページであるメイン・ページとブリーフ・ケースです。ブリーフ・ケースでは、テキスト形式以外のデータもアップ・ロードして保管でき、ユーザーが自由にそのコンテンツをダウンロードできます。一方のメイン・ページでは過去のメールを確認できます。

(4) ブリーフ・ケース

事務局からの連絡用の(2)で例示したブリーフ・ケースには、JSD会員名簿、JSD総会資料、テキスト・データ以外のデータなどがアップ・ロードされ保管されています。

このようなアップ・ロードされているブリーフ・ケースのファイルを利用するには、まず利用したいファイルがアップ・ロードされているグループを選択します。

選択したグループのページに移ると下図のようなコンテンツのメニューが表示されますので、ブリーフ・ケースへのリンク行をクリックしてください。



(5) アドレス変更連絡のお願い

メールアドレスに誤りや変更があると返信エラーとなります。以後の送信が出来なくなります。**変更があるときには必ず連絡ください。**

■ ■ JSD 入会のご案内 と入会手続き ■ ■

2009年3月25日改定

システム・ダイナミクス学会日本支部(以後、JSD)は、国際学会であるシステム・ダイナミクス学会(以後、SDS)の日本支部です。JSDは学会誌の発行のほか、JSD研究会、研究分科会の開催など、会員の相互研鑽のための活動に取り組んでいます。

§ 会員資格と会費

下表の会員区分とそれに対応した会費を設定しています。

一般会員 : 年会費 5,000 円 システム・ダイナミクスに関心を持つ個人

学生会員 : 年会費 2,000 円 主たる所属が教育機関で、常時、学生資格を有する個人

賛助会員 : 年会費 50,000 円 SD研究と普及の趣旨に賛同し、JSDの活動を支援していただける団体

§ 会員への案内

会員への案内と相互情報交換には、メーリング・リストを利用しています。

§ 事務局

住所 : 〒102-0092 東京都千代田区隼町2031-12 藤和半蔵門コープ1F POSY Corp. 内

電話 : 03-3512-5358

事務局 E-Mail(入会の申込み宛先) : jsd-renraku@yahoo.co.jp

URL : http://www.soc.nii.ac.jp/jsd/index_j.html

■ JSD 入会の手続き

入会希望の方は下記項目(必須)をご記入の上、システム・ダイナミクス学会日本支部事務局へ、**メール添付ではなく、メール本文として**お送りください。理事会の承認後に、JSDの入会案内をお送りいたします。事務局で年会費の振込みを確認した時点で、入会の確定とさせていただきます。なお、2週間たっても振込みがない場合には、入会の承認を自動的に取り消すことをご了承ください。

確認事項: JSDはSDSの下部機関ですから、日本支部としての存続に必要な最小限な個人情報、SDSに送付する可能性があることをご了承ください。

システム・ダイナミクス学会日本支部会長殿

システム・ダイナミクス学会日本支部へ、(一般会員 学生会員)として入会を申し込みます。

注)一般会員、学生会員的一方を残して他を消去して下さい。

(1) 氏名(漢字表記とアルファベット表記): 例名 太郎: Reimei, Taro

(2) 所属会社・機関名:

(3) メールアドレス:

(4) 郵送宛先住所

郵便番号(〒):

住所1(区市町番地):

住所2(ビル名):

住所3(所属先へ送付の場合には会社名など):

(5) 電話番号:

(6) 入会情報は何かから/どなたから、お聞きになりましたか?:

■ 初年度会費の入金日: 年 月 日(←必ずご連絡下さい。)

§ 会費振り込み郵便口座

2009年から、従来の郵便貯金口座に加えて、一般銀行形式の口座が開設されました。

一般銀行から振り込まれる場合には、下方の銀行形式の口座番号をお使い下さい。

いずれの場合にも、申し込まれる会員名が分かるように振込み者名を入力してください。

なお、郵貯銀行から振り込まれる場合には、郵貯銀行に備え付けの振込用紙をお使い下さい。

郵貯銀行からの振込口座 口座登録名 : システム・ダイナミクス学会日本支部
(システム ダイナミクスが ッキアノソフ)

記号 : 10180 番号 : 52553581

他銀行からの振込口座 店名 : 〇一八(ゼロ イチ ハチ)

店番 : 018

預金種目 : 普通預金 口座番号 : 5255358